

1. 研究課題名：適切なリスク管理対策の選択を可能にする農薬の定量的リスク評価法の開発

2. 研究代表者氏名及び所属： 稲生 圭哉
(独立行政法人 農業環境技術研究所)



3. 研究実施期間： 平成 23～25 年度

4. 研究の趣旨・概要

農耕地で使用する農薬の一部が河川に移行し、生態系へ悪影響を及ぼしているのではないかという懸念がある。近年、「農薬の節減」や「農薬の流出防止技術の導入」などの環境保全対策が推進されているが、これらの対策による生態リスクの低減効果を事前に評価し、最も効率性の高い対策を選択することが望まれる。

本研究では、河川や小水域における生物多様性を保全するという観点にたち、農薬使用に伴う地域レベルでの生態リスクを定量的に評価する手法の開発を行う。

これにより、リスク低減効果の高い環境保全対策を選択することが可能となり、農業生産現場において生物多様性に配慮した適切な農薬使用の推進に役立つものである。

5. 研究項目及び実施体制

- ① GIS を活用した地域レベルでの曝露評価法の開発
(独立行政法人 農業環境技術研究所)
- ② 河川生態系の在来種を用いた新たな毒性試験法の開発
(独立行政法人 農業環境技術研究所)
- ③ 確率論を導入した農薬の生物多様性影響評価法の開発
(独立行政法人 農業環境技術研究所)
- ④ 生物多様性を対象とした地域レベルでの農薬のリスク指標の開発
(独立行政法人 農業環境技術研究所)

6. 研究のイメージ

研究の背景

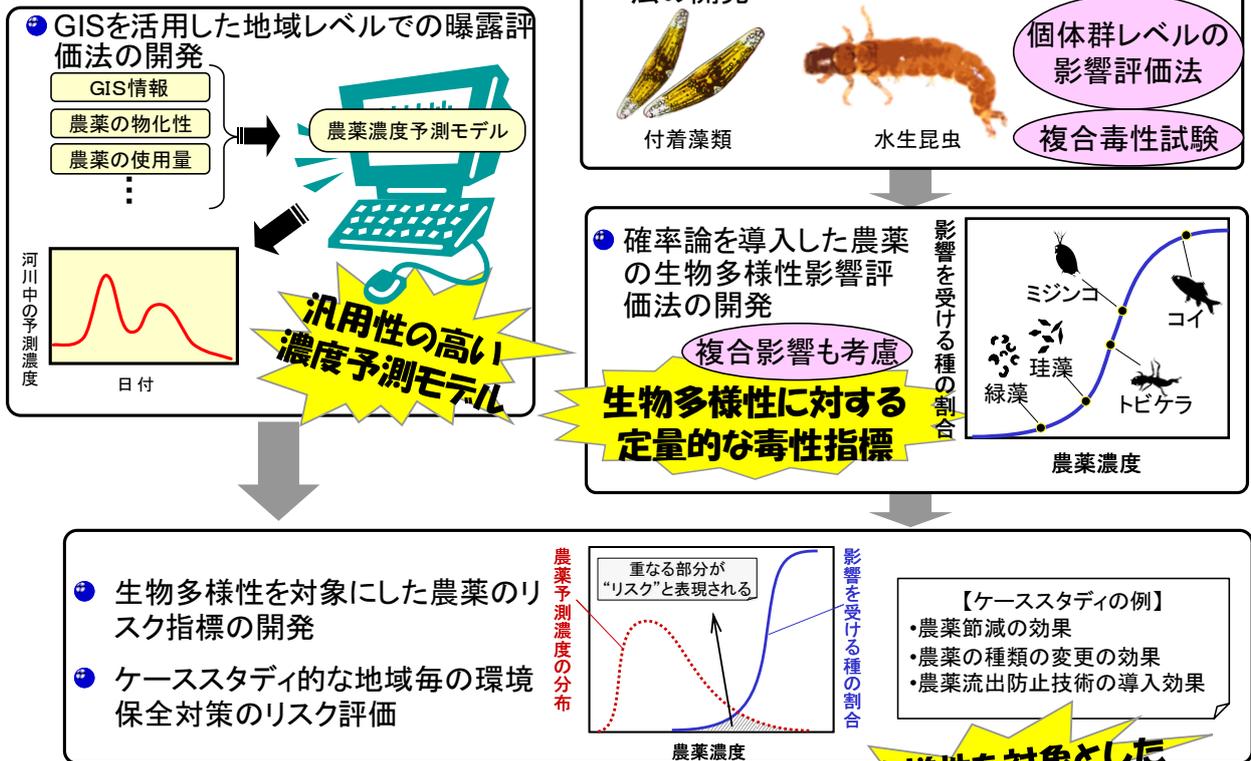
農薬の環境リスク管理上の課題

- ・農薬のリスク管理措置について、そのリスク低減効果が評価できていない。
- ・環境保全、生態系保全を目的としているのに、生物多様性への影響を評価する視点に立っていない。
- ・生物多様性の保全には、定量的な評価方法の確立が必要である。

研究の目的

✓ **生物多様性に対する農薬の定量的なリスク評価を開発し、その管理対策の効果を評価する手法を提示する。**

研究の内容



期待される効果

- ✓ 農薬の生物多様性を考慮した定量的な生態リスク評価が可能となる。
- ✓ 環境低負荷型技術の生物多様性保全に対する効果の定量的評価が可能となる。

科学的根拠に基づいた農薬の生態リスク管理の推進
(効率的な保全施策の選択が可能となる)